

● 災害が発生したら

**生き残ることが最優先
自分の命は自分で守る**

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意
- むやみに動かず、安全を確認
- 非常口やドア等を開けて避難口を確保
- 正確な情報を収集し、なるべく集団で行動
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に
- エレベーターを使用せずに階段で行動
- 負傷者の救護や初期消火に協力
- 家族との安否確認と学校へ安否連絡
- 「おかしも」を守る

押さない かけない しゃべらない 戻らない



● 日頃の準備



- 地域の災害特性の把握
- 避難場所の確認(学校、自宅周辺)
- 家族との連絡方法、待ち合わせ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録
- 帰宅ルート、所要時間の確認
- 緊急時メモの作成・記入
- 非常時の情報手段の確認
- 危険物の把握、転倒防止対策
- 非常持出しアイテムの準備
- 学校、友人等への連絡方法の確認とリスト準備

携帯電話・スマートフォン

<https://www.showagakuin.ac.jp/bousai/>

上記 URL または右記 QR コードよりアクセスし、
予め保存してください。ただし、
緊急時は携帯電話の充電が切れることもある
ので、本マニュアルもあわせて携帯して下さい。
※インターネット接続時には、パケット通信料
がかかります。



● 非常持出アイテム

日頃から携帯しておくもの

□ 現金(小銭も) □ 携帯電話、スマートフォン等

- 学生証、免許証、健康保険証
- タオル、ばんそうこう、包帯
- 雨具、ティッシュ、ウェットティッシュ
- 携帯充電用 USB ケーブル
- ビニール袋、油性マジックペン
- チョコレート、あめなど

非常時持出しアイテム

- 常用薬とその処方箋
- ろうそく、マッチやライター
- 懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池
- 貴重品(印鑑、貯金通帳)
- 衣類(上着、下着、靴下) □ リュック
- 洗面道具 □ 運動靴、スリッパ
- 使い捨てカイロ □ 軍手、ロープ



災害対応マニュアル

いのちを守るそして助け合う心を!



昭和学院短期大学

● 学校への連絡方法

安否連絡について

大地震が発生した場合、本学は学生の安否確認を行います。

地震発生時に登校していない場合は、連絡可能な状況になり次第、下記の方法で学校に連絡してください。

Eメール

sgjc@showagakuin.ac.jp

電話

047-324-7115

電話はつながりにくくなる可能性が高いので、なるべくEメールで連絡してください。

報告事項

- ① 学籍番号 ② 氏名 ③ 本人・家族の状況
- ④ 自宅や付近の状況 ⑤ その他

● 安否情報(電話)

電話で確認 **災害用伝言ダイヤル「171」** いない

携帯電話でも利用可能

【伝言の録音・再生】

- 171へ電話をかける ➡ ガイダンスが流れる
- 録音 1 + 電話番号(録音 30 秒以内)
- 再生 2 + 電話番号(被災地の方の電話番号)

<http://www.ntt-east.co.jp/voiceml/>

体験利用について

災害発生に備えて利用方法を事前に覚えられるよう
体験利用提供日が設定されています。
毎月 1 日、15 日(0:00~24:00) 正月三が日
防災週間(8 月 30 日~9 月 5 日)
防災とボランティア週間(1 月 15 日~1 月 21 日)

● 安否情報(インターネット)

インターネットで確認 **災害用伝言板サービス**

NTT災害用伝言板(web171)

<https://www.web171.jp/> (web171)へアクセス
登録または確認したい電話番号を入力
伝言を登録する/伝言を確認する
登録の場合は【ひらがな氏名】【安否】【伝言】を入力して
「伝言を登録する」をクリック。

災害伝言板サービスQRコード

ドコモ ソフトバンク au グーグル



各社で提供されているサービスについては各ホームページをご参照ください。

緊急時パーソナルメモ

氏名	
学籍番号	
専攻	
緊急連絡先	
住所	
電話番号	
持病	常用薬
アレルギー	
自宅近くの避難場所	
家族との待ち合わせ場所	

記入は油性のペンを使用して下さい。

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②



今いる場所は安全？

YES
その場所を動かない

NO
避難場所へ移動

家族との安否連絡



自宅に歩いて帰れる？

YES
自宅へ



NO
避難場所へ

安否連絡 学校へ

通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- 「帰宅するか」「登校するか」または、「最寄りの安全な場所に避難するか」は自分で判断する。

- 被害状況を正しく把握する。
 - 事前に家族と相談して決めた場所に移動する。その場所が危険な場合は別の避難場所にする。
 - 避難中は警察や消防の指示に従う。
- 家族の電話番号
- | | |
|--|--|
| | |
| | |

- ### 帰宅困難者 10 か条
- ・あわてず騒がず状況判断
 - ・携帯ラジオをポケットに
 - ・作っておこう帰宅地図
 - ・ロッカーにスニーカー
 - ・事前に家族と話し合い
 - ・安否確認、ボイスメール
 - ・かばんの中にチョコやキャラメル
 - ・歩いて帰れる訓練を
 - ・季節に応じた冷暖準備(カッパ、携帯カイロ、タオルなど)
 - ・声を掛け合い、助け合う

- 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、状況を確認してから帰宅すること
- 災害時の歩行速度は約 2.5km/時程度。10km は 4 時間を要することになる。
- 日没後の行動は危険で、夜間は犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、一人での行動は避ける。
- 日没目安：
3月20日 17時53分 6月20日 19時
9月20日 17時41分 12月20日 16時31分

学校にいるとき

- ### 大きな揺れを感じたら
- 激しい揺れは 1 分程度
- 危険物から離れる
窓や棚、ガラスなどから離れる。実習中や課外活動中などで、周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れる。
 - 落下物から頭と手足を守る
机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。落下物がない場所にいる場合は、その場に座る。
 - 出口を確保する
ドア付近にいる人はドアを開け、出口を確保する。(余裕がある場合)
 - 揺れがおさまるのを待つ
安全を確保して揺れがおさまるのを待つ。

- ### 揺れがおさまったら
- 冷静に落ち着く
- 周囲の状況を確認
周囲のものが倒れたり、落下してくる恐れがない場合はその場で待つ。危険と判断した場合は安全なところへ移動する。
 - 初期消火
火災が発生している場合は、自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。消火が困難と判断した場合は、すみやかに火から離れる。
 - 負傷者の救護
負傷者がいる場合は、自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員に連絡をする。
- ### 避難するときの注意点
- 教職員や非常放送の指示に従う
- 「おかしも」を守る
「押さない、かけない、しゃべらない、戻らない」身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく。
 - 火災が発生している場合
煙を吸わないようにタオルなどで口を覆う。
 - 階段で移動
エレベーターは使用せず、階段で移動する。

本学は一時避難場所に指定されています

安全が確認されるまで学校に留まる

余震が落ち着き、帰宅手段の安全が確認されるまで無理に帰宅せず、原則として学校や避難場所に留まる。通学途中などに徒歩で帰宅する場合の目安は 20km 以内。チェーンメールやうわさなどにまどわされず、テレビ、ラジオなどで正確な情報を収集する。

キャンパス案内図

本八幡方面 ← バス通り ← 大町方面

災害時徒歩帰宅支援ステーション

このステッカーを貼ってあるお店は、水道水やトイレの提供、通行可能箇所などの情報提供、一時的な休憩の場を提供しています。

コンビニエンスストア・ファミリーレストランなど

防災情報 Web

国土交通省の防災情報が見られます。
<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>